

2019年6月21日

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)の東京臨海部実証実験に参画

損害保険ジャパン日本興亜株式会社(社長:西澤 敬二、以下「損保ジャパン日本興亜」)は、内閣府が実施する戦略的イノベーション創造プログラム(以下「SIP」)第2期「自動運転(システムとサービスの拡張)」※にて実施する『東京臨海部実証実験』に参画することとなりましたのでお知らせします。

1. 背景

内閣府は、SIP第2期「自動運転(システムとサービスの拡張)」の一環として、より安全で快適な自動運転を実現可能とする走行環境を構築し、自動運転の実証実験を行うことで、技術、制度、社会的受容性に関する課題解決に向けた取組みを促進し、実用化と普及の加速を図るため、『東京臨海部実証実験』(以下「本実証」)を実施します。

損保ジャパン日本興亜は、リスクアセスメントをはじめとした自動運転サービス実証の支援などを通じて、全国の自動運転実証実験に参画してきました。

このたび、国際的にも先駆的な取組みである本実証に参画することで、自動運転社会における損害保険会社が担う役割の研究をさらに加速させることを目的として、株式会社ティアフォー(社長:武田 一哉)、アイサンテクノロジー株式会社(社長:加藤 淳)および株式会社フィールドオート(社長:渡部 大志)と共に本実証実験に参画することとなりました。

2. 実証実験の概要

本実証実験の参加者は、国内外の自動車メーカー、自動車部品メーカー、大学等28機関。参加機関の車両は最終的に合計で100台程度となる見込みです。

臨海副都心地域、羽田空港地域、羽田空港と臨海副都心等を結ぶ首都高速道路(一般道を含む)において、交通インフラにより信号情報を提供する環境の構築、高精度3次元地図の提供等を行う予定です。特に、羽田空港においては、公共交通システムのための磁気マーカー、仮設バス停、専用レーン等、首都高速道路においては、合流支援やETCゲートに関する情報提供等を行う環境を構築する予定です。

3. 今後について

損保ジャパン日本興亜は、国内における自動運転技術の社会実装に向けて大きな意義を持つ本実証に参画し、より一層の産官学連携を進めるとともに、「安心・安全な自動運転社会」の実現に向けて、研究をさらに加速させ、自動運転技術の社会実装に貢献していきます。

以上

※戦略的イノベーション創造プログラム第2期「自動運転（システムとサービスの拡張）」

自動運転を実用化し普及拡大していくことにより、交通事故の低減、交通渋滞の削減、交通制約者のモビリティの確保、物流・移動サービスのドライバー不足の改善・コスト低減等の社会的課題の解決に貢献し、すべての人が質の高い生活を送ることができる社会の実現を目指して、産学官共同で取り組むべき共通課題（協調領域）の研究開発を内閣府が推進するプロジェクトです。

https://www8.cao.go.jp/cstp/stmain/20181113_adusrinkai.html（内閣府HP）